授業科目名	文学Ⅰ			必修・選択の別	選　択
担当者氏名	大久保　健　治	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

将来、看護や介護などの職に携わろうとする学生を対象として、疾病医学・生死、介護・障害者などをテーマにした代表的な近・現代文学作品を取り上げ、現代的な問題を明らかにする。

【授業計画・内容】

第　1　回　文学Ⅰ概説
第　2　回　結核と文学1（徳富蘆花『不如婦』）
第　3　回　結核と文学2（樋口一葉）
第　4　回　知的障害者と文学
第　5　回　文学と生死観
第　6　回　文学と障害者（谷崎潤一郎『春琴抄』）
第　7　回　白血病にみる文学観
第　8　回　ハンセン病と文学
第　9　回　老人介護文学1
第　10　回　老人介護文学2
第　11　回　神経症と文学
第　12　回　車椅子と文学
第　13　回　エイズと文学1
第　14　回　エイズと文学2
第　15　回　まとめ及び後期定期試験

【授業形態】

講義

【教科書等】

特に指定しない

【参考文献】

適宜講義中に指示する

【成績評価方法】

前期定期試験により評価。なお出席も参考にする。

【学生へのメッセージ】

社会的イメージを代表する文学的言説が、いかに病や障害を語りそれらのイメージを固定化しているのかを学んでほしい。

授業科目名	心理学Ⅱ			必修・選択の別	選　択
担当者氏名	成　田　　猛	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

人間は受胎から出生そして死に至るまで絶えず変化する。一般的には、この加齢に伴う心身の変化の過程を発達と呼んでいる。講義では、この変化の過程について新生児から老年期までを取り上げる。このクロノロジカルな全体性の中で個別の時期の特性とその問題性を検討する。これにより、人間は発達の各段階において異なる存在であることを知ることが出来る。

【授業計画】

第　1　回　乳幼児期：0歳から3歳まで
第　2　回　幼児期：3歳から就学まで（1）
第　3　回　幼児期：3歳から就学まで（2）
第　4　回　児童期：前期－小学校1～3年
第　5　回　児童期：後期－小学校4～6年
第　6　回　思春期：前期－中学生
第　7　回　思春期：後期－高校生
第　8　回　青年期：前期－高校生
第　9　回　青年期：後期－学生と社会人の間
第　10　回　成人期：社会人として
第　11　回　成人期：家庭人として
第　12　回　中年期（1）
第　13　回　中年期（2）
第　14　回　老年期
第　15　回　試験

【授業形態】

講義

【教科書等】

馬場禮子、永井　徹共編　ライフサイクルの臨床心理学　培風館　2005、プリント他等。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

試験による評価。出席日数が不足した場合には、学校側が定めた事項に準拠して対応する。

【学生へのメッセージ】

臨床は時代をうつす鏡であるといわれる。受講生は、各発達段階で提示される臨床例を通して人間の不思議さを学習することになる。人間の心理は複雑であり、臨床のおもしろさもここに存在する。

授業科目名	経済学Ⅱ			必修・選択の別	選　択
担当者氏名	長　崎　健　二	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

ヨーロッパの経済の歴史を材料に、経済的繁栄と衰退の要因を学びそれを参考に日本経済の過去と現在と将来について考える。

現代経済の源流としてのヨーロッパにおける経済的な繁栄の歴史をたどる。繁栄する国が衰退しいつしか歴史の表舞台から姿を消す。西欧の国民経済のこうした盛衰の歴史を学び、それを鏡として現代の日本経済がどのような状況にあるのかを考える。なぜ繁栄し、なぜ衰退したのか。衰退の主因は政府なのか、社会の仕組みなのか、それとも一人一人の生き方なのか。国民経済の盛衰と経済学の関係も取り上げる。

【授業計画・内容】

第　1　回　経済学Ⅱの講義概要
第　2　回　歴史はどこから始まった
第　3　回　ヨーロッパの経済史概要
第　4　回　古代ギリシャの経済
第　5　回　古代ローマ帝国の経済
第　6　回　封建社会の成立と経済の仕組み
第　7　回　中世ヨーロッパ社会の生活
第　8　回　中世ヨーロッパ社会とキリスト教
第　9　回　イタリア諸都市の繁栄
第　10　回　ポルトガル、スペインの繁栄と衰退
第　11　回　オランダの繁栄と衰退
第　12　回　イギリスの繁栄
第　13　回　日本の資本主義経済の成立
第　14　回　戦後の日本経済の発展と東北
第　15　回　まとめと試験

【授業形態】

講義

【教科書等】

授業時に説明する。

【参考文献】

【成績評価方法】

出席、レポート、試験などで総合的に判断する。

【学生へのメッセージ】

日本経済の現在はどのような位置にあるのか。経済を衰退させないためにはどのような個人と社会が必要なのか。自分なりの考えを導きだすことが目標となる。

授業科目名	生命の科学Ⅱ			必修・選択の別	選　択
担当者氏名	奥　野　智　旦	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

生命は、多くの有機化合物・金属イオン等の存在とそれらの反応によって構築された精緻なシステムです。生物の基本的な仕組みや個々の独特な機能・現象の解明およびその結果の文明への応用が生命科学です。

この科目では、現在の生物学の中心である、上で述べたことを分子レベル即ち、化合物の構造とその反応で説明する分子生物学を紹介します。

遺伝物質または情報高分子としてのＤＮＡ・ＲＮＡと細胞活動、タンパク質の多様な機能とその生合成システム、遺伝子（ゲノム）の複製システム、遺伝子の変異および組み換えＤＮＡ技術・遺伝子工学・バイオテクノロジーをとりあげます。

生物におけるどんな現象もそれに関与する分子（物質）の構造に起因することの理解と化合物利用の精巧さを認識して、現代人の教養の一部となることを目標とします。

【授業計画・内容】

第 1・2 回　分子生物学、細胞と生物
第 3 回　遺伝物質ＤＮＡの発見
第 4 回　遺伝情報と流れと情報高分子、ＤＮＡの構造・性質
第 5 回　情報高分子ＲＮＡとタンパク質の構造と機能
第 6 回　ＲＮＡの合成；転写
第 7 回　タンパク質の合成；翻訳
第 8 回　レポートの作成と提出
第 9 回　遺伝情報の保存；DNAの複製
第 10 回　遺伝子の変異・修復・組み換え
第 11 回　遺伝子の取り扱い技術
第 12 回　組み換えＤＮＡ技術とバイオテクノロジー
第 13 回　真核生物の染色体構造、細胞の維持・調節
第 14 回　ゲノム生物学
第 15 回　テストおよびまとめ

【授業形態】

講義

【教科書等】

基礎分子生物学　第 3 版（田村・村松著、東京化学同人）

【参考文献】

細胞の分子生物学（中村・松原訳、Newton Press）

【成績評価方法】

出席状況、レポートおよびテストの成績

【学生へのメッセージ】

生物（生命体）は、一番複雑なシステムで動く機械です。理解は大変ですが、一番面白い機械のはずです。

授業科目名	数と統計－保健科学のための－		必修・選択の別	選　択
担当者氏名	八重樫　裕　幸	開講期	2年後期	単位数　2

※看護学科は必修

【授業の主題と目標】

コンピュータの普及と発達により科学分野だけでなく社会分野、人文分野においても計算機が利用されている。とりわけ表計算やデータベースを用いた統計解析の結果を目にする機会が増している。この様な現代社会において、統計処理の結果を正しく判断し、自らも統計解析ができることを目的とする。

学習では統計解析の基礎をコンピュータを使ったシュミレーションで学び、統計学での母集団や正規性について視覚的効果を用いた学習方法を使用する。

【授業計画・内容】

第　1　回　授業の説明と学習の仕方について
第　2　回　ばらつきとそれを表す量
第　3　回　確率とばらつき
第　4　回　正規分布と確率
第　5　回　正規分布の特徴
第　6　回　区間推定
第　7　回　回帰直線
第　8　回　母集団
第　9　回　母集団の扱い
第　10　回　母集団の正規性と2つの母集団の比較
第　11　回　統計的検定F検定
第　12　回　統計的検定t検定
第　13　回　統計的検定x 2乗検定
第　14　回　分散分析
第　15　回　まとめと試験

【授業形態】

講義、演習

【教科書等】

新訂　やさしい統計学　山畑吉雄著　現代数学社

【参考文献】

なし

【成績評価方法】

レポート、試験による評価

【学生へのメッセージ】

何を統計で調べるのか、それを調べるにはどのような手段を使用するのか、またどのような母集団なのかを理解してほしい。

授業科目名	文章表現法			必修・選択の別	選　択
担当者氏名	大久保　健　治	開講期	2年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

日本語の特徴を体系的に学び、コミュニケーションの手段として不可欠な「話す」という行為から、「書き言葉」としての日本語を文章で表現する実践を通じて体得する。手紙の書き方や敬語法などを中心として日本語に対する意識を高める。

【授業計画・内容】

第　1　回　文章表現法概説
第　2　回　敬語の文化的背景
第　3　回　敬語のマスター１（尊敬語）
第　4　回　敬語のマスター２（謙譲語）
第　5　回　敬語のマスター３（丁寧語）
第　6　回　文の構造上の問題１
第　7　回　文の構造上の問題２
第　8　回　文の構造上の問題３
第　9　回　文のねじれ
第　10　回　助動詞、助詞の習得１
第　11　回　助動詞、助詞の習得２
第　12　回　手紙文の書き方１
第　13　回　手紙文の書き方２
第　14　回　手紙文の書き方３
第　15　回　まとめ及び後期定期テスト

【授業形態】

講義

【教科書等】

特に指定しない

【参考文献】

適宜講義中に指示する

【成績評価方法】

前期定期試験により評価。なお出席も参考にする。

【学生へのメッセージ】

自分の意見を相手に伝えるためには、思いの強さ以上に文章力、文脈力が喪求されることを自覚してほしい。

授業科目名	人間と環境			必修・選択の別	選　択
担当者氏名	後　藤　忠　志	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

天気などの気候環境、平野や丘陵地、山や森林などの地形環境、河川・湖沼・海などの水環境に関する基礎知識を学び、これらが人間生活にどのような恵みを与え、どのような災いをもたらしているのかを伝えたい。必要な予備知識は特にないが、授業終了時には、人間と自然とが共生する必要性とそのノウハウ修得を目標とする。

【授業計画・内容】

第　1　回　気候概要・日本の気候－気候とは何か？－
第　2　回　気候と健康－意外！密接関係、気候と心身
第　3　回　気候と衣食住－暮らしと天気－
第　4　回　山と人間－火山の恵みと災い－
第　5　回　台地・丘陵地と人間－土地改変最大の犠牲者－
第　6　回　平野と人間－自然豊かな本来の湿地－
第　7　回　地下水と人間－湧き水だけでない地下の水－
第　8　回　土壌と人間－自然の源、土とミミズ
第　9　回　森林と人間－生活を守る森
第　10　回　河川と人間－まさに“滝”！日本の川－
第　11　回　湖沼と人間①－湖の自然－
第　12　回　湖沼と人間②－汚れやすい湖－
第　13　回　海岸と人間－島国日本の危機・失われ行く海岸－
第　14　回　海洋と人間－海洋国家、日本。その国民として－
第　15　回　まとめと試験

【授業形態】

講義

【教科書等】

特に指定しないが、自作資料や視聴覚教材等を用いて授業を進める

【参考文献】

適宜、授業中に紹介する

【成績評価方法】

出席状況や普段からの受講態度、授業中に時おり実施する小課題回答の内容、そして学期末定期試験などにより総合的に評価する

【学生へのメッセージ】

予習や復習は必ずしも必要ないが、ついでの際でもよいので、授業でとりあげた内容を身の回りの実際の環境にあてはめて考えたり観察してみると、より自然に、より深く理解が可能であろう。

授業科目名	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ		必修・選択の別	選　択
担当者氏名	北原かな子・岩間薫	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

ジェンダー概念に関連する諸事象を歴史的視点から学び、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）の概念・意義等を国際的視点から捉えながら、セクシュアリティとジェンダー、女性の健康問題等について理解する。さらに、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ確立に向けて考察し、行動することができるための知識を身に付ける。

【授業計画・内容】

第　1　回　ガイダン－基本概念の説明と講義の概要
第 2～4 回　歴史の中の「ジェンダー」－近代を中心に
第　5　回　現代社会システムにおける「ジェンダー」
第 6～7 回　リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念
第 8～9 回　セクシュアリティとジェンダー
第 10～11 回　リプロダクティブ・ヘルスを阻害する問題
第 12～14 回　リプロダクティブ・ヘルス／ライツ確立に向けて
第　15　回　まとめと試験

【授業形態】

講義

【教科書等】

資料配付

【参考文献】

適宜提示

【成績評価方法】

出席状況、レポート・試験成績等の総合評価

【学生へのメッセージ】

女性の皆さん！あなたは自分の体のことをどれだけわかっていますか？男性の皆さん！あなたの大切な人のことをどれだけわかっていますか？女性の視点から女性の健康問題・社会問題を一緒に考えてみませんか？

助産師を目指す人は、必ず履修して下さい。

授業科目名	人間関係論		必修・選択の別	選　択
担当者氏名	高　野　隆　一	開講期	2年後期	単位数　2

※看護学科必修

【授業の主題と目標】

人間関係において、相手を理解し受け入れていくために必要な基本的な態度やコミュニケーションのあり方、そして人間関係に関わる対人感情や対人認知の問題を理解し、良好な人間関係を維持できるようにすることが目標である。講義終了時には、対人援助職として学習しておくべき基本的態度および必要なコミュニケーション技法について十分に習得することを目標とする。

【授業計画・内容】

第　1　回　援助的人間関係において必要な基本的な態度（1）「無防衛」、「共感」
第　2　回　援助的人間関係において必要な基本的な態度（2）「受容」
第　3　回　援助的人間関係において必要な基本的な態度（3）「熱意」、「間」、そして「心理的距離」
第　4　回　援助的態度を実現するための具体的な技法（1）「促しの技法」、「繰返しの技法」、「要約の技法」
第　5　回　援助的態度を実現するための具体的な技法（2）「解釈の技法」、「共感の技法」、「保障の技法」、「沈黙の技法」
第　6　回　援助的な態度を実現するための具体的な技法（3）「明確化の技法」、「質問の技法」、「対決の技法」
第　7　回　非言語的コミュニケーション
第　8　回　対人感情（1）好き嫌いの条件について
第　9　回　対人感情（2）条件つきの好き嫌いと無条件の好き嫌い
第　10　回　対人認知と自己認知（1）印象形成のプロセスおよびステレオタイプによる認知
第　11　回　対人認知と自己認知（2）自己評価と他者評価
第　12　回　対人認知と自己認知（3）他己評価による自分自身の理解
第　13　回　主張行動と同調行動について
第　14　回　攻撃行動について
第　15　回　試験

【授業形態】

講義

【教科書等】

諏訪茂樹　「援助者のためのコミュニケーションと人間関係」　建帛社

【参考文献】

必要な場合は、プリント資料を配布する

【成績評価方法】

出席状況及び試験による総合評価。

【学生へのメッセージ】

良好な人間関係を維持していくために必要で重要な基本的知識を学びます。

授業科目名	家族論			必修・選択の別	選　択
担当者氏名	出　雲　祐　二	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

現代社会において家族がますます空洞化し、崩壊しているかのように言われている。児童虐待や子育ての問題が起こる一方で、高齢者扶養や介護の問題も家族と大きく関わっている。この講義ではこうした家族の変遷を理解するとともに、現代家族が抱えている問題とその背景について理解することを目的としている。また家族がそれぞれのライフサイクルで抱える課題、すなわち、結婚、出産、子育て、夫婦関係、親子関係、扶養関係、介護関係などについて学習することで、今後の家族像や家族形態について考えていきたい。さらに問題を抱える家族に関する分析方法や家族療法の考え方について概説する。

【授業計画・内容】

第　1　回　　オリエンテーション
第 2～4 回　　家族とは？　家族と社会化
第 5～6 回　　家族の役割と機能
第 7～9 回　　結婚とは、夫婦とは？
第 10～12 回　　子育てと親子関係
第 13～15 回　　健全な家族と問題をもつ家族：家族療法の考え方

【授業形態】

講義

【教科書等】

【参考文献】

参考文献などは講義の中で紹介する。

【成績評価方法】

課題レポートによる評価

【学生へのメッセージ】

看護や福祉の現場では、家族から相談を受けたり面接したりする場合が多いので、家族をどのように捉えるか学んで欲しい。